

第1回 第5次亶理町総合発展計画審議会

議事概要

開催概要

日 時：令和2年7月2日（木） 13：25～15：25

場 所：亶理町役場 2階 大会議室

出席者：

No.	役職等	氏 名	出欠
1	尚綱学院大学 総合人間科学系 特任教授	見上 一幸	出席
2	亶理町教育委員会委員教育長職務代行者	佐藤 正行	出席
3	亶理山元商工会長	門澤 俊夫	欠席
4	みやぎ亶理農業協同組合代表理事組合長	村山 裕一	出席
5	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理運営委員長	菊地 幹彦	出席
6	前子ども・子育て支援審議会長	志賀 力	出席
7	亶理町区長会長	高野 治夫	出席
8	吉田西部地区まちづくり協議会長	鈴木 達朗	出席
9	亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会委員	佐藤 徳美	出席
10	尚綱学院大学 学生	湯村 綾佳	出席
11	尚綱学院大学 学生	武田 寧々	出席

※委員11名中、10名出席

事務局：

所 属		氏 名
亶理町企画課	課長	齋 義弘
	企画班兼情報政策班 班長	齋 正幸
	企画班 副班長	布田 秀一
	企画班 主事	大堀 淳

事務局補助：

企業名	氏 名
国際航業株式会社	増戸 保明
	竹田 浩一
	小山 久美

配布資料：

- ①次第、審議会委員名簿
- ②亶理町総合発展計画審議会条例
- ③【資料 1】第 5 次亶理町総合発展計画について
- ④【資料 2-1】データ等からみる亶理町の現状
- ⑤【資料 2-2】亶理町の現状（まとめ）
- ⑥【資料 3-1】町民アンケート調査 結果概要
- ⑦【資料 3-2】町民アンケート調査 結果概要（まとめ）
- ⑧【資料 4】まち・ひと・しごと創生総合戦略 K P I 計測結果（速報）
- ⑨冊子『亶理町第 5 次総合発展計画』
- ⑩冊子『亶理町第 5 次総合発展計画 概要版』
- ⑪冊子『亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 30 年度版』
- ⑫『亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 30 年度版 概要版』
- ⑬第 5 次亶理町総合発展計画審議会委員 委嘱状
- ⑭第 5 次亶理町総合発展計画後期基本計画に係る諮問書（写し）

以上、当日配布

議事概要

（委嘱状交付）

- 開会に先立ち、山田町長が委員を代表して見上委員に委嘱状を交付した。また、それ以外の委員には机上交付とした。
- 企画課企画班（以下「事務局」という。）の齋班長が、情報公開の観点から、本日の審議会の議事録をホームページ等で公開することについて説明した。

1. 開会

- 齋班長が開会を宣言し、進行を行った。（以下、議事の進行に関わる部分については「司会」と表記する。）

2. あいさつ

- 山田町長が、「皆さんこんにちは。本日はお忙しいところ、第 5 次亶理町総合発展計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、この度委員の就任を快くお引き受けいただきましたことに、心から御礼申し上げます。
さて、本日昼の速報で、都内で 100 名超の感染者が出たという報道がありました。新型コロナウイルスの影響で、日本を取り巻く社会・経済情勢が大きな変革期を迎えています。また、長期に渡る経済の停滞、急速な高度情報化社会の進展など、これらの潮流に対応すべく、社会システムの見直しが急務となっています。
このような中、亶理町では平成 28 年度からスタートしました『第 5 次亶理町総合発展計画』を指針として、将来都市像“山と川、里と海が人と時代でつなぐまち”の実現を目指し、各種事業を推進してきましたが、今年度で計画のスタートから 5 年が経過し、前

期基本計画の最終年度を迎えることとなりました。本日委嘱状を交付させていただきました、学識経験者1名、町内の主要団体などから8名、1月に町と連携協力に関する協定を締結させていただきました尚絅学院大学から参加いただいた学生2名の、計11名の委員の皆様には、亘理町のこれからのまちづくりにとって最も重要となる後期基本計画について、審議を行っていただくこととなります。

町としましては、社会情勢の様々な変化を見据え、基本構想を継承しつつも、より重点的かつ実効性のある後期基本計画を策定したいと考えておりますので、皆様お忙しい中とは存じますが、それぞれの専門的・町民としてのお立場から、忌憚のないご意見とご提案を賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりますが、本審議会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、これまでの審議会から規模を縮小して開催をさせていただくこととしました。委員の皆様には何かとご不便やご負担をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力を重ねてお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。皆様、どうぞよろしく願いいたします。」とあいさつした。

3. 審議会委員・事務局の紹介

○司会が、町長および委員、事務局、策定支援業務を受託している建設コンサルタント会社からの出席者を紹介した。

4. 亘理町総合発展計画審議会条例について

○事務局の齋企画課長が、「亘理町総合発展計画審議会条例」について説明した。

5. 会長・副会長の選出

○会長と副会長の選出まで、協議の進行は山田町長が行うこととした。

○亘理町総合発展計画審議会条例（以下「条例」という。）第5条の2に基づき、会長と副会長は互選により定めるが、立候補者、推薦者は無かった。高野委員より事務局案の提示を求められたため、事務局が会長に尚絅学院大学 総合人間科学系 特任教授の見上一幸委員、副会長に吉田西部地区まちづくり協議会長の鈴木達朗委員を提案した。

○山田町長が見上委員の会長就任、鈴木委員の副会長就任について諮ったところ、委員全員より異議なしの声があり、会長と副会長が決定した。

○会長と副会長が前面の席に移動した。

○見上会長より、「改めまして皆様こんにちは。ただいまご指名に預かりましたので、大変僭越ではございますが、進行役、会長を務めさせていただきます。一生懸命頑張りますので、どうぞ協力をお願いいたします。

私は現在、尚絅学院大学の特任教授をやらせていただいておりますが、2年前までは宮城教育大学で6年間学長をさせていただいておりました。その間亘理町に本当にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。世界で最初に組織された民間ユネスコ協会である仙台ユネスコ協会の会長や、文部科学省の日本ユネスコ国内委員なども務めさせていただいておりますので、これらに関する情報などをこの場にお届けできれば、

少しはお役に立つのではないかと考えております。

また、グローバルな観点で言えば、SDGsが地方創生のために世界的に注目されていますので、これが亘理町の総合発展計画の中にうまく収まるようになれば良いと考えています。活発なご意見を期待します。どうぞよろしく願いいたします。」とあいさつがあった。

○続いて鈴木副会長より、「ただいま副会長にご指名いただきました鈴木です。諸先輩方を差し置いてこのような大役を仰せつかりまして、正直緊張しております。皆様の方々のお力添えをいただきながら、会長をサポートしながらこの審議会の運営をまとめ、素晴らしい審議会にしたいと考えておりますので、皆様の活発なご意見等をいただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。」とあいさつがあった。

6. 第5次亘理町総合発展計画後期基本計画にかかる諮問

○条例第2条に基づき、山田町長が見上会長に対し、第5次亘理町総合発展計画後期基本計画の策定に係る諮問書を交付した。

○ここで町長が公務のため退席した。

7. 協議事項

○条例第5条の3に基づき、これ以降の進行は見上会長が行った。

(1) 第5次亘理町総合発展計画について

○事務局の布田副班長が、配布資料の過不足について確認した。

○続いて布田副班長が、「資料1 第5次亘理町総合発展計画について」に基づき、総合発展計画の位置づけや後期基本計画の構成、見直しの視点などについて説明した。

○見上会長が委員に質問や意見を求めたが、特に出されなかった。

(2) 亘理町の現状について

○事務局の布田副班長が、「資料2-2 亘理町の現状(まとめ)」に基づき、データ等から整理された亘理町の現状と今後の方向性(案)等について説明した。

○会長が委員に質問や意見を求めた。

佐藤委員：

「亘理小中学校、逢隈小中学校の児童生徒数が多い」という説明がありましたが、これは町内の他の小中学校と比べるとという意味だと思います。質問ですが、各学校の児童生徒数の推移は把握しているのでしょうか。

事務局 布田：

今回の資料には載せておりませんが、基礎データとして経年変化は毎年把握しております。

佐藤委員：

今後の方向性に「公共施設等について、中長期的な視点で更新・統廃合・長寿命化などを実行していく」とあるので、現状はしっかり把握しておく必要があると思います。

見上会長：

私は神奈川県出身です。宮城県に来て「亶理町はどういうところか」と聞いたところ、「『東北の湘南』です」という答えがありました。とてもイメージが良い言葉で、確かに暖かいし食べ物は美味しいし素晴らしい景観もあるし、なるほどと思いました。ぜひ地元の皆さんから「こんなに良いものがある」という要素があれば、今後の方向性のプラスアルファとして付け足すこともできると思うので、ご意見お願いします。

村山委員：

農業に関する大きな要素として、大震災からの復興事業が挙げられます。亶理郡全体の7割くらいの農地が大規模ほ場整備されており、県内でも有数の発展規模です。この農地集積に伴い、農家構造も変わってきています。農家数は減っていますが、担い手を中心とした大規模経営体が増えていて、素晴らしい技術進歩や魅力的な農業振興がなされています。

この現状を生かして、いちごを始めとした農作物がますますブランド化されていくのではないかと見ています。

事務局 齋(正)：

本日は参考としてお示しした資料2-1の16ページに、農業の状況について載せております。村山委員のご指摘の通り、農家数は減少していますが農家あたりの経営耕地面積が増加していることが、グラフから読み取れます。この要素は後期基本計画に反映させていきたいと考えています。

村山委員：

こういう要素がないと、特徴のない町になってしまうかもしれません。

見上会長：

今の村山委員のご意見はとても大事です。人口が減っていくとしても、そういうことが発展のチャンスになるかもしれませんので、ぜひ盛り込んでいただければと思います。

(3) 町民アンケートについて

○事務局の布田副班長が、「資料3-1 町民アンケート調査結果概要」「資料3-2 町民アンケート調査結果概要(まとめ)」に基づき、町民アンケートの概要について説明した。

○会長が委員に質問や意見を求めた。

見上会長：

公共交通機関の利便性の満足度が低いという結果でしたが、このアンケート結果により巡回バスの運行を開始したのでしょうか。それとも、運行していたがあまり効果が現れなかったということでしょうか。

事務局 齋(義)：

町民バスはこのアンケートの前から運行しています。亶理町では移動手段のほとんどが自家用車です。電車を利用するにしても朝夕の駅までの便数が少ない、日中の買い物や病院までの便数が少ないなど、様々な要望は頂いています。ただ、仮にこれを実際に走らせた場合の検証をすると、効果とマッチングしないという結果になってしまうというのが現状です。

見上会長：

ある程度の利用率がなければ成り立たないという一面もありますからね。

村山委員：

吉田東部の定住意向の低下の原因は何となく想定できますが、何か対策は考えられているのでしょうか。調査結果の生かし方が気になります。

事務局 齋(義)：

アンケート結果は住民の皆様の声です。吉田東部の定住意向については震災の影響も大きいと思いますが、将来像の実現に向けて、大きな課題として捉えています。

村山委員：

おっしゃる通り、重点課題だと思います。浜吉田駅が移転しなかったことも踏まえて、コミュニティ維持を含めた定住・発展施策を考えるべきだと思います。駅があるので、このままではもったいないです。

見上会長：

地域が限られているので、工夫のしようがあるかもしれません。

村山委員：

J Aに対し、津波で流された食料品店舗の要望が以前あったのですが、住民が減っていて出店が難しいため、今は移動販売車を走らせています。移動販売は好評をいただいています、やはり「定住」となると意向は低くなってしまいかもかもしれません。

事務局 齋(義)：

もともと浜吉田駅周辺は、ある程度の店や農協さんのコープがあったので、地域の生活拠点として十分成り立っていたのですが、震災後、駅周辺には店舗が存在しなくなっていました。これも影響して、一部の住民の方が移転していったということがあります。地域の皆様からスーパーや病院の要望はたくさん頂いていますが、すぐ対応できるというわけにはいきませんので、十分計画を練っていきたいと考えています。

高野委員：

2,000 人のうち 842 人の回答があったとのことですが、アンケートに答えた人は何らかの要望があるのであって、逆に返信しなかったのは特に要望などは無いからという人がほとんどだと思います。そうすると、例えば今のような限られた地域の意見が結果に大きく影響するなど、町全体の平均的な意見とは言えなくなるのではないかなと思いました。偏りの出ない意見の把握方法があると良いと思います。

事務局 齋(正)：

今回 2,000 人を無作為で抽出しているので、地域や年代の配布バランスは取れています。また、亘理町の人口規模でいうと、統計学上 350 サンプルあれば平均的な結果が得られるとされる中で、倍以上の回答がありましたので、調査の信頼度は確保できていると考えています。

高野委員：

仮に地区ごとの回収数が例えば 500、一方で 30 とかであったとしたら、偏りが出てしまうのではないかなと思って質問いたしました。

事務局 齋(義)：

本日の資料にお示ししておりませんが、全体を 100 とした場合の回収率は、亘理地区で 39.4%、荒浜地区で 5.6%、逢隈地区で 35.3%、吉田西部地区で 8.9%、吉田東部地区で 10.0%、無回答が 0.8%となっており、概ね実際の人口割合と同じ割合でした。

鈴木副会長：

吉田東部地区の定住意向の低下はまちづくり協議会でも話題になります。移動販売も重要ですが、以前は地区に 3 軒あった医療施設が 0 軒になってしまったことが原因のひとつではないかと危惧しているところです。医療施設があれば、今後の定住に関して大きく話が展開していくのではないかと考えています。

事務局 齋(義)：

総合発展計画は町の最上位計画ですので、どういう方向で進んでいけばより良い町になるのか、また、新型コロナの影響で社会状況が大きく変わっている流れの中でどのように進んでいくべきか、様々検討して計画として作り上げるものです。そのため、皆様から色々なご意見をたくさんいただきたいと考えていますので、よろしくご意見をいただきます。

村山委員：

町の将来像について、「20 代と 30 代の一位が子育て支援のまち」という結果は、非常に重視していくべきことだと思います。ここをしっかりと支援しないと、将来人口を確保できなくなるかもしれません。保育所などには全員入所できているのでしょうか。

事務局 齋(義)：

待機児童の数は以前よりも少なくなってきており、徐々に改善されています。次の議題の (4) で触れますが、このような結果も踏まえながら、今後検討していきたいと考えています。

見上会長：

ここで (4) の K P I の計測結果について事務局にご説明いただいてから今のご質問含めて意見交換したほうが良さそうですので、事務局からの説明をお願いします。

(4) K P I (重要業績評価指標) の計測結果について

- 事務局の大堀主事が、「資料 1 第 5 次亘理町総合発展計画について」「亘理町総合戦略平成 30 年度版(概要版)」「資料 4 まち・ひと・しごと創生総合戦略 K P I 計測結果(速報)」に基づき、総合戦略の概要と位置づけ、K P I の計測結果について説明した。
- 会長が委員に質問や意見を求めた。

高野委員：

人口 34,000 人を維持するということが掲げられていますが、これは昼間人口ではなく夜間人口を対象としているのですか？

事務局 大堀：

はい、夜間人口で 34,000 人の維持ということです。

高野委員：

そうであれば、当面は町内の従業員数の確保と、子育て支援の充実が必要になると
思います。資料を見ると、企業数は増加傾向で推移しながら目標値までもう少しと
いう状況のようですが、町内の企業で、雇用のキャパシティーはあるのでしょうか。

事務局 齋(義)：

目標値は希望を含めて設定したのですが、計画策定後、町内への企業誘致を進め
た結果、会社の数も徐々に増えてきています。ただ、企業さんに聞くと、募集して
もなかなか集まらないということもあるようですので、今後も地元雇用を進めてい
きたいと考えています。

志賀委員：

ファミリー・サポート・センターに関してですが、利用料金が 1 時間 800 円という
のは高くして利用を避けている人もいるため、制度の改善が必要ではないかと、審議
会でも話題に上がっていました。

待機児童については、町にも取り組んでいただいた結果、一時期よりだいぶ少なくな
りました。ただ、やはり「親の通勤途中の場所に保育所があると預ける時も迎え
に行く時も助かるのに」という声をよく聞きます。できればもう一箇所くらい増え
て、常に空き定員があるくらいが望ましいと考えています。

また、学校教育について注文があります。子ども達は町の“志教育”によって、先祖
や自分たちの置かれている立場についての考えを持っているはずですが、しかし、そ
れを発表する場がない。そこで、例えば企業などとタイアップして、子ども達の考
えを事業化しても面白いのではないのでしょうか。亶理町の歴史といえば伊達成実が
有名ですが、伊達邦成が明治初期に 3,000 人の家臣団とともに北海道伊達藩を開拓
したこと、亶理町に残った 6,000 人も非常に苦勞して町を支えたこと、こういう歴
史を学校で教え、自分たちの言葉で様々なアイデアを出して実現化することによ
って、地域に愛着を持つことにつながると考えています。

亶理町には日本の半分ほどのシェアをもつ会社もあります。そういうことも教えて、
自分は何をするべきかということを考える教育を通じて子ども達が育っていく環境
になれば良いと考えています。

加えて、ポストコロナ、A I 技術の進展に伴う自動運転の実現化の時代が 10 年以内
には来ると言われている中で、亶理町ではどう対応していくべきかというのを常に
念頭に置きながら、計画にも反映できればと考えています。

見上会長：

教育に関しては、例えば教育委員会などと連携していくことで実現化に向かいやす
いかもしれませんね。

他のご意見については、私も気になる大きな課題だと捉えていることもありますの
で、今後議論していきたいと思います。

佐藤委員：

アンケートで、地方創生事業が住民の方にあまり知られていないという結果は、総
合戦略委員会としても残念だと思いました。ただ、現時点での認知度は低いですが、

今後も色々なことをやってほしいという意見が多いようですので、個人的には子育て支援事業にもっと力を入れつつ、内容も少し見直しながら実施していくべきと考えています。

子育て支援に関しては、働いている人に対する支援だけでなく、在宅で子育てしている人への支援や親の学び、家庭・幼児教育というのも重要だと思います。私は子育てサポーターを20年やらせていただいていますし、県も町もとても力を入れてくださっているので、うまく事業の効果が出て、若いお母さんたちが互理町で子育てを楽しくできるようになれば良いと考えています。「子育て支援」というとどうしても待機児童などの方に考えが行きがちですが、それ以外の面での支援なども広げて行けたらと思います。

志賀委員：

色々な事業を実施していて広報紙にも載っているのですが、認知度が低くて利用に結びついていません。情報発信のあり方も課題だと思います。

見上会長：

様々なご意見をいただきありがとうございます。

この委員会には若い方も参加していますので、互理町がこんなふうになったら良いとか、今日の感想とかでも構いませんので、順番にお願いします。

武田委員：

互理町の町民として育った感想として、互理には本当に愛着があります。伊達家の歴史については知っていることが多いのですが、先程のご意見にあった日本の中でかなり大きなシェアを誇るような企業などは、学校で習った記憶があまりなく、大学生になってから、互理の誇れる部分や名産などを知ることが、かなり多いです。若者にもっと愛着を持ってもらうためにも、こういうことを知ってもらうような教育を取り入れると良いのではないかと思います。そうすれば、互理に居ることを起点にして就職や人生設計する人が増えてくるのではないかと思います。

また、20歳を過ぎて「子育て」に関心が出てきています。広報紙に情報が載っているのは知っていますが、それ以外にもっと身近で知るきっかけがあると、若い人にも伝わりやすくなって、役場に足を運ぶようになるのではないかなと思いました。

湯村委員：

私は名取に住んでいるのですが、「同じだな」と思ったのは公共交通機関の利便性に不満が多いという点です。山の上に家があるので、友達とご飯を食べていてもバスの最終が20時なのですぐに帰らなければならないことが多いのですが、どこの地域でも課題となっているのだと感じました。

本数を増やしても利用する人が少ないと利益の面などで大変でしょうから、少ない本数の中でも不便にならないような仕組みを考える必要があると感じました。

見上会長：

若者の生の声ということで、どこかに生かしていただければと思います。

震災以降、大学生がボランティアに非常に熱心に取り組んでいます。町としても学生ボランティアを貪欲に活用されると、大学も喜ぶますので、そういった方法もあるかと思っています。

佐藤委員：

「子育て支援」というと、ややもすると学校に入る前までと捉えられがちですが、やはりどんな小中学校で学べるのかというのも非常に大事です。

亘理町の児童生徒数は減少傾向にあります。平成 20 年度から 30 年度の 10 年間で 500 人程度減少しており、令和 7 年度にはかなりの数が減ると予測されています。このような中で、これまでの小中学校の考え方で良いのか、教育環境をどうしていくべきか、建物の経年劣化等も踏まえて、統廃合や学区の見直しなども含め、しっかり考えていくべきではないかと思います。これらを実行するのは 10 年先だとしても、今から検討すべきではないでしょうか。

また、ご意見にありました教育内容については、教育委員会も町や学校と連携しながら検討していくものと考えています。

志賀委員：

学校でも社会教育やその繋がりを作るべきです。例えば学校の空き教室を、高齢者や地域の方々、NPO、大学生など、様々な主体が活用して交流する場として活用できれば面白いのではないのでしょうか。

見上会長：

今のご意見は具体的な事業内容として今後議論を深めていくものと思います。

村山委員：

私は昭和三十年代に亘理中学校を卒業したのですが、当時中学校に体育館が無く、柔道部の活動は小学校の講堂を借りたり、校庭に栈橋と畳をひいて行ったりしていました。そんな記憶から、空いている教室やスペースは大いに活用すべきだと思います。

話は変わりますが、職場の若い職員が「通勤途中に子どもを預けられるところがあるのが一番良い」と言っていました。現実的に身近にもこのような声があるということ、実感しています。

見上会長：

そのようなことも、議論が深まってきた段階で具体的な反映方法を検討していくものと思います。

さて、様々なご意見をいただきましたが、最近のこととしては新型コロナの影響、それに伴うテレワークの普及なども挙げられます。コロナが落ち着いてからも、一部の企業ではある程度テレワーク推進の方向になるかもしれませんので、例えば仙台の青年会議所や企業に出向いて意見を聞いて、子育て支援が充実した“東北の湘南”にゆっくり暮らしながら仕事をする、という企業要望が得られるかもしれません。この辺も情報を集めながら、今後議論していきたいと思います。

それでは、菊地委員のご意見はいかがでしょうか。

菊地委員：

学校教育もちろん大事ですが、「食育」というかたちでの教育というのも重要だと思っています。私は個人的にも岩沼や仙台辺りの子ども食堂に材料や情報提供をしているのですが、そこでの子ども達の様子を見ると、食を通じると自然な感じで話を聞いたり喋ったりしてくれます。町のこと、歴史のことで知らないことが多いという意見がありました。食べ物からアプローチして行って、観光事業とも

連携していくなどすると、面白いのではないかと思います。

見上会長：

まさにSDGsの重要なテーマのひとつですので、今後議論していきたいと思えます。

○会長が更に委員に質問や意見を求めたが、特に出されなかった。

(5) 審議会のスケジュールについて

○事務局の布田副班長が、審議会のスケジュールについて以下の内容を伝えた。

- ・新型コロナウイルス対策のため、開催回数を3回程度に抑える。
- ・第2回を9月から10月、第3回を来年1月に開催予定。
- ・第2回は後期基本計画骨子案、第3回はパブコメや審議会意見を踏まえた修正案の内容を審議いただく予定。
- ・資料は事前配布する。

8. その他

○見上会長がその他の意見を求めたが特に出されなかったため、協議を終了した。

9. 閉会

○司会が閉会を宣言した。(15:25閉会。)